

成田市役所エコオフィスアクション(第4次成田市環境保全率先実行計画)(平成30年度)結果

2018(平成30)年3月策定の「成田市役所エコオフィスアクション(第4次成田市環境保全率先実行計画)」では、市のすべての施設から排出される総排出量(一般廃棄物の溶融分を除く)及び原油換算一次エネルギーの使用量を2016(平成28)年度と比較して2022(令和4)年度までに**6.0%削減**すること並びに一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガス排出量を**12.3%削減**すること。計画期間は2018(平成30)年度から2022(令和4)年度までの5年間です。

1. 温室効果ガス総排出量

温室効果ガスの排出量は、直接測定するのではなく、排出量を算定しようとする期間における活動量(例えば、ガソリン・電気・ガスの使用量)に、国が定めた排出係数(一単位あたりの活動に伴う温室効果ガスの排出量)を乗じて算定しています。

市の事務事業の実施に伴う平成30年度の温室効果ガス総排出量は**49,469(t-CO₂)**であり、基準年度(平成28年度)と比較し**17.6%の削減**となりました(表1参照)。

分類別に見ると「市役所分」は**10.7%の削減**、「一般廃棄物溶融分」については**21.5%の削減**となっています。

市役所分の削減の要因としては、電気の使用に関して排出係数が低い株式会社成田香取エネルギーとの契約施設の増加、一般廃棄物溶融分の削減要因としては、一般廃棄物処理量の減少及び組成分析の結果においてビニール等の割合が低下したことに起因します。

表1:平成30年度温室効果ガス総排出量

分類	平成28年度排出量 (t-CO ₂)	平成30年度排出量 (t-CO ₂)	増減量 (t-CO ₂)	増減率
市役所分	21,903	19,553	-2,350	-10.7%
一般廃棄物溶融分	38,130	29,916	-8,214	-21.5%
合計	60,033	49,469	-10,564	-17.6%

2. 各種活動量実績, 活動種類別温室効果ガス排出量

(1) 市のすべての施設から排出される総排出量（一般廃棄物の溶融分を除く）

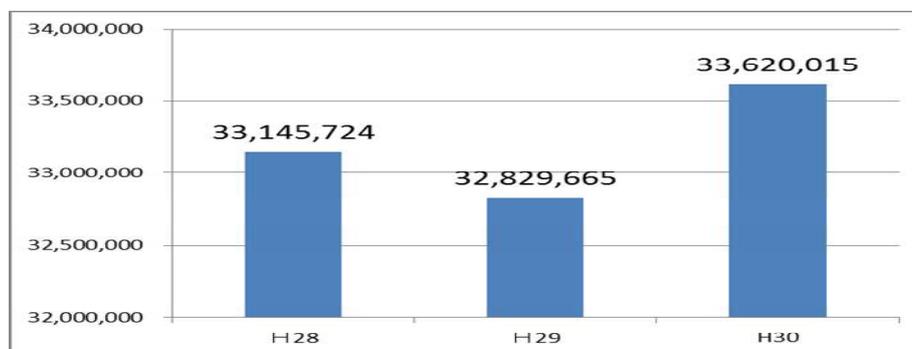
平成30年度における活動量の実績については表2のとおりです。基準年度と比較するとガソリン, 軽油, 電気の使用, 農業集落排水が増加しております。電気の使用における温室効果ガスの排出量については, 排出係数が低い株式会社成田香取エネルギーとの契約施設増加による影響により10.1%削減しておりますが, 使用量については, 基準年度と比較すると1.4%の増加となっております。

基準年度(平成28年度)との比較において活動量が増加していることから, 引き続き, 職員においては, 節電の必要性を認識してもらうとともに, 施設管理者においては, 利用者への節電の啓発のほか, 電気使用量の計測・管理の徹底に努めることとします。

また, ガソリンの使用量は基準年比で増加しており, 今後も, 計画的な走行, エコドライブの実施などを心掛けるとともに, 庁用車を入れ替える際には, 引き続き低燃費車など環境負荷の少ない車の導入を推進します。

活動の種類	単位	平成28年度(基準年度)			平成30年度			平成28年度(基準年度)			平成30年度		
		活動量	活動量	増減率	排出量(t-CO2)	排出量(t-CO2)	増減率	原油換算値:kL	原油換算値:kL	増減率			
燃料の使用	ガソリン	L	142,315	154,011	8.2%	330	358	8.4%	127	137	8.3%		
	灯油	L	287,866	273,292	-5.1%	717	680	-5.1%	273	259	-5.2%		
	軽油	L	43,936	48,897	11.3%	113	126	11.8%	43	48	10.6%		
	A重油	L	220,218	213,626	-3.0%	597	579	-3.0%	222	216	-2.9%		
	LPG	m3	41,865	30,450	-27.3%	126	91	-27.5%	55	79	44.5%		
	都市ガス	m3	1,648,285	1,349,297	-18.1%	3,676	3,009	-18.1%	1,914	1,560	-18.5%		
電気の使用	kWh	33,145,724	33,620,015	1.4%	16,237	14,603	-10.1%	8,490	8,648	1.9%			
自動車の走行量	km	1,552,276	1,481,473	-4.6%	14	13	-7.1%						
し尿の処理	m3	26,947	26,222	-2.7%	33	32	-3.0%						
農業集落排水	人	2,695	2,712	0.6%	58	59	1.7%						
その他					3	3	0.0%						
合計					21,903	19,553	-10.7%	11,123	10,946	-1.6%			

表2: (参考) 電気の使用量(単位:kWh)



(2) 一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガス排出量

平成24年10月から稼働している「成田富里いずみ清掃工場」では、ガス化溶融炉方式を採用しております。一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガスの排出量は、基準年度(平成28年度)と比較し **21.5%の削減** となりました(表3参照)。

主な削減要因としては、一般廃棄物処理量の減少及び組成分析の結果においてビニール等の割合が低下したことに起因します。

今後も、プラスチックをはじめとした、ごみ減量のため、市で運営する各種イベントや会議等でもリユース食器の使用やマイボトルの持参等を推進します。

表3:活動量・活動種類別温室効果ガス排出量(一般廃棄物溶融分)

活動の種類	単位	平成28年度活動量 (基準年度)	平成30年度活動量	増減率	平成28年度排出量 (t-CO2)(基準年度)	平成30年度排出量 (t-CO2)	増減量 (t-CO2)	増減率
一般廃棄物の処理 (全量)	t	60,726	57,914	-4.6%	1,027	979	-48	-4.7%
一般廃棄物の処理 (廃プラスチック)	t	13,710	10,749	-21.6%	37,102	28,937	-8,165	-22.0%
合計					38,130	29,916	-8,213	-21.5%

3. その他

本結果の数値公表にあたり合計欄等において、四捨五入による端数処理の関係上、数値が一致しない場合があります。